

意見交換会実施報告書（各種団体）

【1・2班】

開催団体	JA北さつま【畜産部門】	参加人員	12人
開催日時	平成28年2月2日（火） 15:00 ～ 16:40		
開催場所	ホテルオートリ		
出席議員 （担当）	1班：持原 秀行、帯田 裕達、井上 勝博、佃 昌樹、今塩屋 裕一、福元 光一、徳永 武次 2班：川添 公貴、成川 幸太郎、江口 是彦、瀬尾 和敬、杉菌 道朗、小田原 勇次郎 （進行：川添 公貴、記録：成川 幸太郎）		

意見交換の内容

（凡例 ◆団体の意見 ◇議員の意見）

1 北さつま農協川内管内における畜産の現状と振興方策について

《現状と課題》

- ◆畜産農家は、減少傾向にあるものの、大型農家の一貫化飼育により、飼育頭数は微増している。鹿児島県内における子牛市場は10カ所あるが、増頭市場は薩摩地区、鹿児島中央及び大島地区の3カ所である。
- ◆畜産基盤の脆弱化は進行しており、肉用牛繁殖基盤の維持・強化が大きな課題となっている。優良子牛の導入・保留助成金の有効活用や、飼料給与マニュアルによる統一した飼育による肉質の統一化を図り、課題解決につなげたい。
- ◆各種共進会及び第11回全国共進会の対策は、これまで以上の成績を収められるよう取り組んでいきたい。
- ◆薩摩地区においては、出荷日数を、去勢280日、雌275日としているが、県経済連からは少しでも安い牛肉を提供できるよう、肥育日数を10日程度短縮するよう指示されているが、肉質を落とさないような研究をしながら取り組んでいきたい。
- ◆生産頭数が増やせるよう子牛の早期離乳、1日2回の制限哺乳などにより母牛の負担を少なくし、受胎率の向上に取り組んでいきたい。
- ◆増頭促進のために、各地区畜産振興会を中心に統一した取組を強化していきたい。
- ◆キャトルセンターの活用について、農家の肥育負担を少なくし、生産頭数を増やすため、4～5ヶ月位の子牛をさつま町及び祁答院地域のキャトルセンターで預かり、生産頭数の増加につなげていきたい。また、繁殖センターを1カ所増やす予定である。
- ◆肉牛肥育については、研修会や共進会等を通じて肥育技術の向上を図っていきたい。平成27年12月の県経済連が取り扱った牛の販売価格は120万4千円であったが、薩摩地区の牛は、71頭を販売し、132万9千円の販売価格であった。ここ2～3年は、出水を抜いて県内で1番である。薩摩地区においては、素牛も良いものが手配できることもある。
- ◆家畜伝染病対策については、韓国での発生が続いていることから、防疫体制の強化は引き続き行っていきたい。
- ◆薩摩川内市における農家戸数及び家畜頭数は、平成22年度は445戸、4,446頭であったものが、平成25年度は358戸、4,108頭、平成26年度は332戸、4,222頭となっている。平成25年から26年では、農家戸数は減少しているが、頭数は増えている。これは大型肥育農家の影響であり、祁答院地域及び川内地域が増えたためである。
- ◆子牛価格の本年1月と昨年1月を比較すると、雌が9万9千円、去勢が14万8千円それぞれ高くなっている。これは、全国的な頭数不足や牛肉の順調な消費によるものである。
- ◆農耕飼料については、とうもろこし・大豆がメインであるが、上げ止まり傾向にある。平成

27年7月～9月は、1トン当たり1800円のダウンである。農耕飼料の材料については、現状維持から下げ傾向にあるが、以前が高くなり過ぎているので、まだ高い状態である。

- ◆価格動向については、平成26年3月の子牛価格が46万8千円、平成27年10月の子牛価格が94万9千円。差が48万1千円あり、経営的にはこの推移が続けば安定である。

＜意見交換の概要＞

- ◆肥育素牛導入資金貸付基金について、貸付限度額などを更に拡充できないか。
 - ◇できるという即答はできないが、当局に対して一般質問や委員会において皆様の要望をしっかりと伝えていきたい。
 - ◇畜産農家の後継者の支援制度はあるのか。また、新規参入の希望はあるのか。
- ◆JA独自の支援制度はないが、国・市の支援制度を活用している。
- ◆畜舎等の設備経費への補助はあるが、今の貸付制度では、新規就農者は素牛価格が高く導入ができない現状であり、ここ2～3年は、新規就農者がいない。新規就農者は総額2億円程度の投資になり、投資額を回収する目途も立てにくいこともある。
- ◆鳥獣害対策で国の補助により柵をされたところがあるが、鹿・猪による被害は、柵のないところに集中している。絶対頭数を減らす対策が必要ではないか。
 - ◇繁殖に県の種を活用できないか。
- ◆県の種を活用したいが、実績割で配分される。薩摩地区は地元の良い種があり、県の実績が少なく、回ってきて1～2本であり、多く活用できない現状である。
 - ◇新規の方が参入しやすいように、商社との連携による預託肥育から入ることは考えられないか。
- ◆商社との肥育に係る連携は行っていない。商社とは子牛登記証の関係で素牛に係わる取引はある。
 - ◇農耕飼料の価格低減のため、飼料米工場を建設したらどうか。また、堆肥の散布器をJAで購入し、貸与若しくは散布を行えないか。
- ◆両方ともに着手している。
 - ◇色々な課題があると思うが、議員へ情報提供をしていただきたい。それを議会として積極的に当局に伝えていきたい。
- ◆口蹄疫対策として、今でも年2回の巡回消毒は行っているが、充分とはいえないので、行政においても積極的に取り組んでいただきたい。

＜主な要望等＞

- ◆台風15号による停電、1月末の雪害による水道管破裂などの自然災害時に、家畜に飼料や水を与えず、事故も発生した。せめて、大型農家だけでも緊急対策ができるよう要望する。

＜その他＞

- ◆子牛の価格が高騰し、薩摩地区の優良牛が東北地方に流出している現状である。東北地方では、高額の支援を行い、優良牛を確保しているようである。
- ◆堆肥をつくり土に戻すことに取り組んでいるが、散布がスムーズにいかず、農家にたまる傾向にある。
- ◆肥育に必要なノコズが木質バイオマス事業に流れ、価格が高騰し生産コストの増大につながっている。